



SSKS

療育ねっとわーく川崎

2013年3月20日発行
No.157 (2800部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり

みんなの伝言板 3月のカレンダー

ご感想は e-mail: kouhou@rond.jp までどうぞ
★編集メンバー 遠藤・佐藤・谷・七瀬・前田・和田



はいきんぐくらぶずんずん

日曜日に開催予定
☆多摩川を歩く会です。障害のある方もない方も、みんな楽しく歩いています。サポーター募集中!

代表: 桑原由起子
副代表 渡辺百合子・三浦ルイ子
お問合せは Rond・福田まで



マイライフ・カワサキ

☆第2火曜日予定
れいんぼう川崎で行います
お問合せは Rond・和田まで



豊かな地域療育を考える連絡会

第3木曜日の予定です
問い合わせ先 サポートセンター Rond

こんなとき どうするの

○大槌・釜石での震災時の障害のある人の避難状況はどうだったのか。

釜石で被災し犠牲になった障がい者は、健常者のおおよそ2倍(比率)であり、大槌町に至ってはそれ以上の被害を及ぼす結果となっていました。

震災後の避難に関しては、個性があり下記の通りまとめてみます。

1. 時間帯的に支援学校や通所事業所に居る時間帯であったため、被災を免れた方も多い。
2. 自主避難を必要とする在宅の方は、主に家族が避難誘導することが多く、また、地域の方から支援して頂いた方は、予め地域で状況を把握されていたケースが多い。
3. 逆に家族が避難誘導を目的に自宅に戻るなどして犠牲となる方も見られる。
4. 大槌町全体や釜石市の一部の地

Q 東日本大震災から、2年が経ちました。被災地の報道を見るたびに、生活の再建が進んでいないことに胸が痛みます。障害のある人たちの災害対策はどうだったのでしょうか。

大槌・釜石相談支援事業所 トークの藤原さんに、当時のことや現在の災害対策について伺いました。

大槌・釜石での震災時の障害のある人の避難状況はどうだったのか。

釜石で被災し犠牲になった障がい者は、健常者のおおよそ2倍(比率)であり、大槌町に至ってはそれ以上の被害を及ぼす結果となっていました。

震災後の避難に関しては、個性があり下記の通りまとめてみます。

1. 時間帯的に支援学校や通所事業所に居る時間帯であったため、被災を免れた方も多い。
2. 自主避難を必要とする在宅の方は、主に家族が避難誘導することが多く、また、地域の方から支援して頂いた方は、予め地域で状況を把握されていたケースが多い。
3. 逆に家族が避難誘導を目的に自宅に戻るなどして犠牲となる方も見られる。
4. 大槌町全体や釜石市の一部の地

また、下記に付随しますが、現在、岩手県が県社協に委託し防災対応マニュアルを作っている様子ではありますが、正直にはおはなししませんが、あまり期待できるものは作られていないように情報が入っております。

○震災後、障害のある人への防災対策で、新たに作られたものはありますか。

《行政側の動きについて》

・釜石市、大槌町共に現在、防災対策を新たに策定中との話で、釜石市において障がい者にも対応できる福祉避難所の整備は進んでいるようですが、正直、市直営の「釜石市身体障がい者センター」と言う場所では、入浴設備や自家発電などの設備がなく、支援者も一部の市の職員と言うことで専門職ではないこと。業務的には平日の日のリハビリの場所と言うこともあり、私から見ての課題点

今月号の目次

こんなときどうするの.....	1
療育ねっとわーく.....	3
2012年度サポートセンター.....	5
Rondの防災関連の取り組み.....	6
虐待防止法研修会.....	8
明日香のたまご.....	8
3月のカレンダー.....	8

(本誌3〜6頁は会員のみ配布)

障害のある人とその後家族のための アロマ・トリートメント体験

講師 アロマルームパトス主宰 江川泉
日時: 2013年5月19日(日)13:30~15:30
場所: かながわ女性センター多目的室
小田急線片瀬江ノ島駅下車徒歩15分
* 11時~11時45分 医療的ケアおーぶんねっとわーく * 神奈川総会
* 13時30分~ 第1部 障害児とリラクゼーション~アロマケア13年の実践報告~
* 14時30分~ 第2部 障害のある方へのアロマケア
参加者とともにアロマケア体験、親子、家族みんなで体験します。
マッサージオイルのお土産付き
参加費 会員 800円 非会員 1000円
主催: 医療的ケアおーぶんねっとわーく * 神奈川・まほうの手
協賛: フュージョンコム神奈川・県肢体不自由児協会

医療的ケアのある人たちが集まろう

3月25日、川崎市の中で、医療的ケアのある人たちのつながりを作ろうと、声を掛け合って、8名が集まりました。
これから学校に入るこどもたちのお母さん
在学中のこどもたちのお母さん
通所施設に通っている方のお母さん
それぞれの現状を語り合いながら、これからも繋がっていこうと話しました。

連絡先 小塚 メールアドレス
kozuka@rond.jp
医療的ケアのある方の当事者ご家族の方、支援者の方、ご連絡ください。

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
Tel 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/ (会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費一口 2000円

○地域の中で、新たな取り組みをされていますか。自立支援協議会の動きなどお知らせください。

◎自立支援協議会内には、5部会＋事務局（会議）があり、趣旨などは以下の通りです。
・事務局会議（毎月）（各行政担当者や相談支援専門員、各部長で構成し各部会での取り組み内容の報告や地域課題等に関してどの部会で話し合うかなどを検討。）

事務局長は釜石市と大槌町の担当者が輪番で運営の中核を担う（↓ただし、輪番の欠点として毎年、担当者が代わるため動きだしの難しさやノウハウが蓄積しないなど課題がある）
・事業所部会（毎月）（釜石・大槌地域の障がい福祉系の事業所《担当は主にサビ管》

で構成。事業所運営や職員のスキルアップを目的にし、必要に応じて新たな事業展開なども模索。

・子ども支援部会（毎月）（支援学校や各教育委員会、行政担当、療育教室など主に子供に関わる機関で構成し、主に子供の年代層をターゲットにした課題の抽出や研修の企画、対応策などを検討

・生活支援部会（毎月）（精神科病院（ケースワーカー）や相談支援専門員、支援学校高等部進路担当行政担当者で構成。主に地域生活をして

いる障がい者への支援を検討する場で、地域移行や計画相談などの支援の課題を話し合うと共に、地域への障がい理解や啓発活動などを目的にしている

・就労支援部会（毎月）（中ポツセンターや職安、就労系の事業所などを中心に、一般就労や受注作業等の開拓を検討。）

・サービス構築部会（半年1回）（地域の施設長クラスと行政担当や事務局構成員などで構成。事業所部会はあるもの実際に地域で求められる資源創出となると、サービス管理責任者クラスでは決定権が無く。実際に決定権のある施設長クラスに地域課題や求められる資源などを提案し事業展開などの解決策を検討する場。

《今年度の協議会の活動》

1. 事業所部会
・事業所の防災マニュアルの見直しを圏域で行い、それぞれの事業所のマニュアルを参考に必要な対応策を盛り込む。

○災害のような緊急時に、相談支援センター等はこういった役割を果たしてこられましたか。今後どういう役割があると思われませんか？

今回の震災はよく言われますが想定外の被害状況で、まず市町村行政機能が麻痺したところも多く、地域の障がい者支援としては、安否確認などの活動をしておりました。今後の課題としては行政機能が麻痺した際の補完を相談支援が担うべきと思っており、センター機能として「相談支援センター（基幹型相談支援）」は必要と感じております。しかし、基幹型を含めてまだ当地域で行政を含めて必要性は共有してもらえていないのですが、委託費などお金の問題もあり具体化できておりません。また、市町の防災対策に関してもはつきりとした位置づけはないままですが、そのような中で、相談支援側からお願いしたこととして、市町との相談支援の委託業務の中にこれまで無かった「災害時の障がい者保護業務及び情報の共有」を加えてもらいました。これでいくらか必要な個人情報等の入手に関する根拠を作れた

る方の場合は義援金や支援金などで当面の生活に困らない程度のお金を受け取ることが出来ています。その為、家族構成や本人の能力など必要に応じて、相談支援専門員として収支の確認や支出先の整理（携帯電話代など）のお手伝いをさせて貰っています。
また、事業所に関しては、震災後、比較的早い段階（平成23年4～5月頃）から再開している事業所が多く、生活リズムの変化も早い段階で戻っている人たちが多くあります。就労に関する平成23年度が17名の一般雇用され、今年度は12月時点で29名の雇用されるなど少しずつ良くなっているように感じられます。
しかし、個別的に見ると仮設住宅が狭く音漏れの心配などはつきまわっており、家族を無くされた方などを受け入れるグループホームは地域の地価の高騰や建てる場所がないなどの課題があり、震災前から資源の少ない地域でしたが、創出することの難しさがより顕著になっています。対象者によっては数名ですが、成年後見制度の利用も検討する対象者がおり、相談支援も大忙しです。

・歯科医師会や薬剤師会と連携し研修を企画。特に薬剤師会からはお薬手帳の複写（複写持つことを勧められ、利用者の服薬内容を事業所も管理し始める）

・事業所間の連絡網を作成。拠点としては、24時間365日稼働する入所施設を釜石・大槌共に位置づけるが、連絡網に関しては手段（電話やメール、フェイスブックなど）、実際の災害時を想定して未だ検討中。

2. 生活支援部会

・支援学校の卒業生など地域で生活している当事者と、被災にあつて仮設に住んでいる方たちとの交流。目的としては従来、支援を受ける側だった当事者が仮設団地や仮設団地にある高齢者等の支援施設にて、環境美化のお手伝いをし支援を受ける側から支援する側に立ち、障がいの理解を図る。

3. その他

他にも各部会で取り組んだことはありますが、主に震災に関連したものは上記の通りです。
最後に今後の予定になりますが、震災を受けて障がい者支援にあつた団体やこれから支援を検討する団体などが5団体ほど有り、事務局構

成員とそれら新規事業立ち上げを検討する団体が、情報交換を主な目的にプレゼン大会めいたものを企画しております。目的としては、それぞれの新規事業展開を検討中の団体がバラバラに動いており、各々の存在を知らないまま利用者の取り合いを避けることや、実際に事業展開したが途中で運営が難しくなり辞めてしまふなど事業者側や当事者に不利益にならないことを避けるため、地域のニーズを知って貰うことなどを目的にしています。

*上記に関して、良いところだけ記載しましたが、課題も多々あります。ただし、震災前の協議会よりは各部会、各担当者が具体的一歩ないし半歩を積み重ね始めているような実感があります。

○震災後の障害のある人の生活は、再建されていますか。ご家族を亡くされた方や住居を無くされた方たちは、どうされていますか？

質問への回答は正直、難しいところもあります。総体を客観的に見た私見としては、「再建」とイコールではないかもしれませんが、ひとつ「お金」に関しては、被災してい

「郷」を見学しました
医療的ケアがある横浜多機能型拠点

横浜に、医療的ケアのある人が利用できる多機能の施設ができること聞いたのは、昨年の夏のオープンネットのこと。以来、いつかどんな施設なのか、とても気になっていました。チャンス到来！自立支援協議会の見学に同行。
郷は、訪問の家から、歩いて数分。閑静な住宅地の中にあつました。南プロバンス風のオレンジ色の屋根、お金持ちの豪邸のようなたたずまい。それだけで、圧倒。

中に入ると、今まで見たことのない施設設備。1階に短期入所のための居室が4室、施設の真ん中に、機械浴の浴室。日当たりの良さそうなりビングも、どの部屋も高級ホテルのようです。ホテルと違うのは、診療所があり医療設備が整っ

ていること。それから、どの部屋にもリフトが設置されているところ。1対1でのサポートが可能です。2階は、多機能のスペースと幼児さんから大人までの日中短期入所の場。広くて高い天井が快適。窓の前には広いウッドデッキが設置され、小さい子どもたちの水遊びの場にびったりです。
「多機能型拠点」というのは、横浜市の在宅障害者手当を削減した13億の財源による「あんしん」施策の一つです。医療的ケアを必要とする障害児者のための拠点として、全市で3カ所整備される予定で、その第1号が郷になります。

短期入所から開始し、定員は、1日4名（内緊急急粋1名）。看護師さんが対応



します。併設して診療所があり、バックアップもできています。これからは、短期入所、診療所だけではなく、日中一時支援、訪問看護、居宅介護、相談など様々な事業を展開していくことになるそうです。乳幼児から成人までを対象にするそうです。（谷）

明日香のたまてばこ



みなさん、今日は。何もやらないまま、あつという間に3月になってしまいました。去年体の体調から1年が過ぎ、大分調子が戻って来ましたが。まだ完全に戻ったとは言えませんが、痛み止めを飲みつつなんとかやっています。休み過ぎもだめ、動き過ぎもだめ本当に難しいです……

私が調子を崩したことで、私だけではなく両親やヘルパーさんなどとても大変だったと思います。いつもなら自分で立てていた場面でも、介助してもらわなければだめだった。移動する時に緊張が入ってしまった。岩のように重くなってしまった。……そうとうきつかったはずです。一度調子を崩してしまうと、介助者の負担が一気に増えるんですよ。そうなるとお互いが辛くなってしまう。でも、それで家に閉じこもりになってしまうと、ますます体がだめになるばかり。本当に悪循環なんです。

でも、そんな時に全力でサポートしてくれたのがヘルパーさんでし

た。どうしたら体が楽になるか等、一緒に考えてくれたり、介助量が増えた状況で外出したり、本当にありがたかったです。あのまま家に本当に閉じこもってしまったら、もっとひどくなってしまうと思います。夜には体の緊張を抜くために、母さんが体を触ってくれました。とにかく、みなさんのおかげで今の私がい

ます。他にも北リハの方々が訪問して、生活が楽になるように考えて頂き、パソコンデスクと就寝時に足に挟むクッションを作ってくれました。これらを使うようになってから、とても楽になりました。相談して本当に良かったなと思っています。今回体調を崩した事によって、みなさんのありがたみを改めてすごく感じています。本当にみなさん、ありがとうございます。

鈴木明日香

療ねひろば

■第7回療ねひろば
平成25年2月20日ロンド和室にて開催
催 親12名 本人1名 理事1名
職員1名

■4月から始まるまだまだ良くわからない相談支援事業の話をしました。

新しく参加された方よりの話「通所先に4月から30分繰り上げて帰す」と言われた。施設が無くなってしま

うのではという不安感で何もいえなかった」
☆通所先と居住区がちがっています。子どもをよく知っている人が通所先

いの。とても大変です。☆当事者側に立った仕組みではないと思う。

☆日中の彼女・彼らの姿と家庭での生活や実際の親の気持ちとのリンク

がうまくいくか不安です。☆相談支援の職員はどこからくるの

でしょうか？ ☆助け負った法人のどこに相談に行

っても格差がないようにしてほしい。☆重症心身障害児者がわから

ないところでは困ります。☆軽い障害の子、職場には相談しな

いで、きつと相談支援センターができたらそこに相談に行くと思う。き

ちつと相談にのってもらえるのかな？不安です。☆本人の一生を考えた長期的な展望

を見据えた支援をしてほしい。☆施設訪問を定期的に行ってもらって

■ロンドン・ロンドン 大澤 勇



(ロンドンにはいつから……) 3年前、20歳の時です。大学に通っていたんですが、通うのがおぼろしくな

ってやめてしまった。元カノの知り合いのヘルパーさんから声を掛けられたのがきっかけです。福祉系の大学だったのですが、介護Ⅱ高

齢者だと思っていたら、子どもたちの支援もあるというわ

☆わくわく

私は何故かさくらに強い思い入れがあります。生まれ変わったらさくらの花になりたいとまで思う程です。きつと寒がり

(かおる)



■被災地支援

山田町に神奈川農畜産物供給センターと協力して、ジャガイモと小松菜を送りました。

第13回療育ねつとわーく川崎総会
日時 6月20日(木) 10時30分〜
場所 多摩区登戸 アトラスタワー2階 向ヶ丘遊園駅北口
東急ストア2階

次回、療ねひろばは4月24日(水) 10時30分からロンド和室にて開催
佐藤 良子

虐待防止法研修会

3月6日 ヘルパー会で、川崎市障害計画課・滝口さんによる「虐待防止法」の研修会を開きました。今回は、支援者側による虐待防止でした。最初は、ちょっとした不適切な対応が、周りが見過ぎていくと、虐待につながっていくこと、それを防ぐには、日頃からお互いの支援について、話し合える環境が必要だと痛感しました。ご家族の皆さんからの通報も重要です。職員の対応が変だと思われたら、すぐにご連絡をお願いします。（ Rond代表 谷）

障害者虐待の判断に当たってのポイント

研修会資料

虐待であるかどうかの判断に当たっては、以下のようなポイントに留意。虐待かどうかの判断が難しい場合は、虐待でないことが確認できるまでは虐待事案として対応。

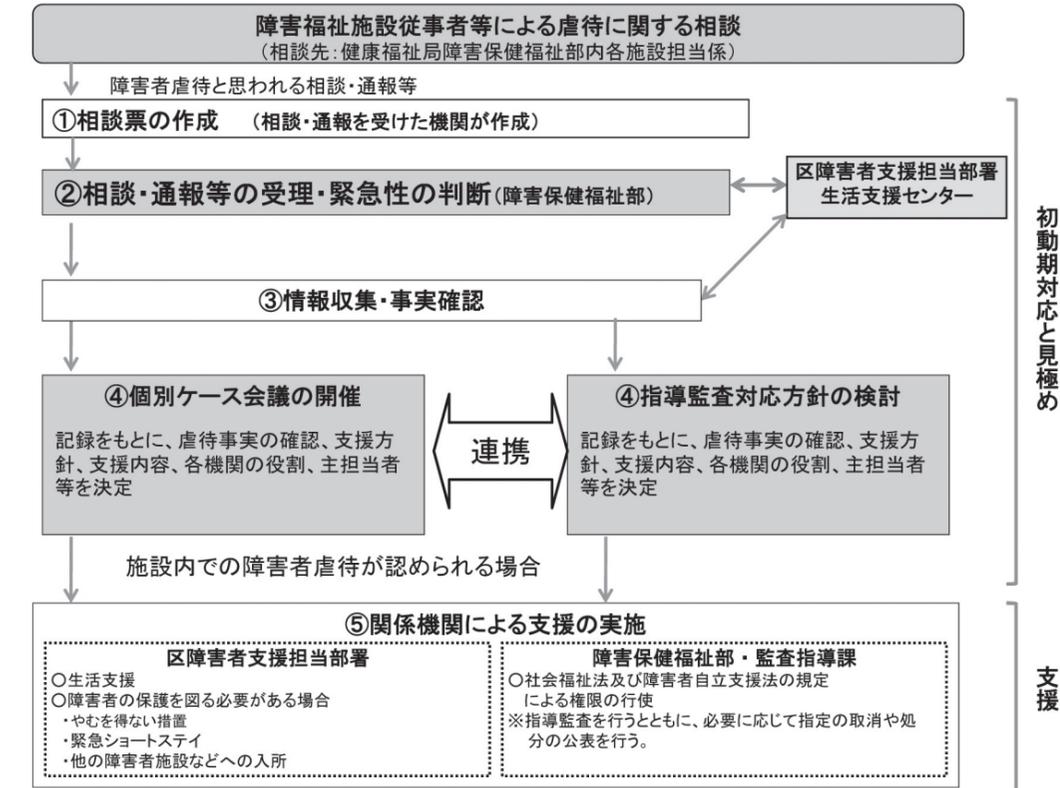
ア 虐待をしているという「自覚」は問わない

イ 障害者本人の「自覚」は問わない

ウ 親や家族の意向が障害者本人のニーズと異なる場合がある

エ 虐待の判断はチームで行う

障害福祉施設従事者等による障害者虐待への対応



2012年度サポートセンター Rondの防災関連の取り組み

①防災マニュアル

「ヘルパーさん用」「職員用」の2種類を作成しました。作成の過程では検討委員会を設け、討議を重ねました。また、職員会議の場でも何回か話し合い、内容について共通理解を図りました。マニュアルづくりはあくまでスタートです。今後も防災訓練等を通じて防災意識を高め、内容の改善に努めたいと思います。



非常持ち出しリュックサック

②防災用品

「非常持ち出し品（保護者が迎えに来るまで等、災害時に当面必要なもの）」はリュックサック等に詰め、本部、2号館、マーチ、ROCK、送迎車、それぞれに配備しました。「備蓄品（災害時に3日間過ごすために必要なもの）」は、今年度中に取り揃え、配備する予定です。品目が多岐にわたる量も多いので、本部、2号館の屋外に防災倉庫を設置し、その中に収納します。

③「災害時おたすけカード」

多摩区自立支援協議会災害対策部会で作成したものを、サポートセンターRondで改訂してカードを作りました。このカードには災害時・緊急時に障がいのある方が、適切な支援を受けられるための様々な情報が書き込めるようになっていきます。災害時・緊急時（発作、ケガ、具合が

④合同防災訓練

災害時には地域の助け合いが必要になります。そこで、近所の「はっぴわーく（北作業所）さん」と合同で防災訓練を行うことにしました。今年度中に実施することはできませんでしたが（実施日は4月17日「水」予定）、はっぴわーくさんの防災担当者と何回か話し合いを持ち、内容について検討を重ねました。また、高津養護学校の防災担当をさせていただいた今泉先生がアドバイザー的な立場



自家発電器

悪くなる等）に障がいのある方の安全が一刻も早く確保できるように、一人でも多くの利用者さんに記入、携行していただきたいと思います。現在、配布中です。

○救命救急講習
災害時、救助隊の到着を待っているだけでは人命を救えません。一人でも多くの人が人命救助の知識と技術を身につけられるよう、2回（2月5・6日）のヘルパー会として「普救救命講習」を多摩消防署内で実施しました。

○その他
○防災出前講座
9月25日に川崎市総務局危機管理室の講師をお招きし、「防災出前講座」を実施しました。

東日本大震災から早くも2年がたちました。この体験から学んで得た教訓を風化させることがないように、今後も防災（減災）に取り組んでゆきたいと考えています。

以上
〈防災担当・美濃口〉